

令和6年度

学校評価報告書



綾瀬市立落合小学校

グラフの凡例

□	そう思う
▨	ややそう思う
▤	あまり思わない
▧	そう思わない
■	わからない

※グラフ中の数字は百分率（％）であらわした数字です。

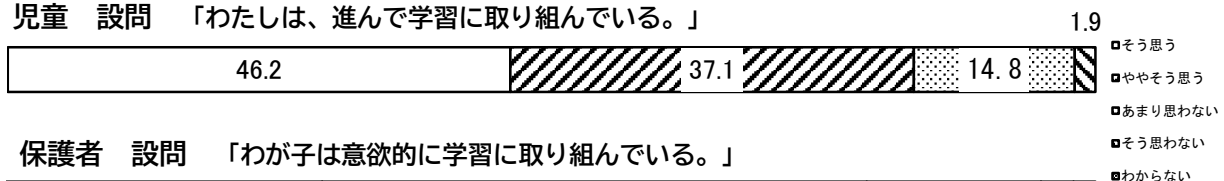
実施日・調査対象 令和6年12月4日 ～ 18日
 (児童 264人)
 (保護者 177人)
 (教職員 23人)

1 学校は、「よく考え、粘り強い子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。

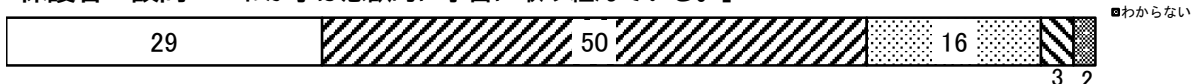
学校の取組

本校では、児童が自ら課題と向き合ったり、他者との関わりを通して対話的に学んだりする“いきいきと学びを楽しむ姿”の実現をめざし、授業づくりを行っています。そのために、児童にとって魅力ある課題を設定することや児童の考えが広がるような授業展開を積極的に取り入れています。今年度も昨年度に引き続き、対話を大切にしながら、授業の最後には「今日、自分は何がわかったのか」自分自身を振り返る「振り返り」に力を入れ、児童のメタ認知や概念的知識の形成を図りました。また、個別指導による学習支援を活用し、学習の基礎・基本の定着を図るとともに、児童一人ひとりにとって教室や学校が安心して前向きに学習に取り組める環境となるように努めています。

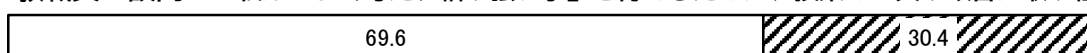
児童 設問 「わたしは、進んで学習に取り組んでいる。」



保護者 設問 「わが子は意欲的に学習に取り組んでいる。」



教職員 設問 「私は『よく考え、粘り強い子』を育てるために、授業の工夫や改善に取り組んでいる。」



今後に向けて

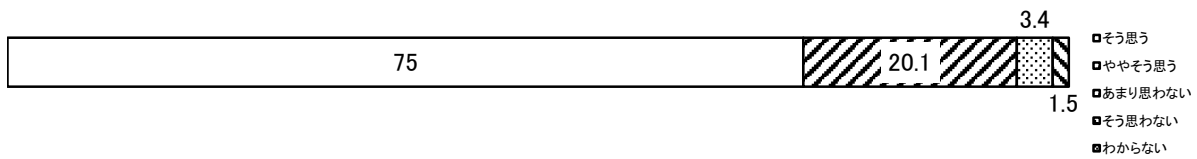
昨年度と同様80%以上の児童が進んで学習に取り組んでいると答えています。授業を始めとする学習全般においてこのように感じられることが、児童の自律的に学ぶ力の育成につながっていくと考えます。引き続き教員間で目指す児童像を共有し、“いきいきと学びを楽しむ”ことができるような課題の設定、児童間や学習材との対話をより効果的に活用する等の授業改善に取り組んでいきます。「学習の振り返り」にも継続して取り組み、児童が自分自身の学びの過程や変容を自覚できる場面を大切にしていきます。

2 児童は、運動会や委員会、係活動、たてわり活動に積極的に参加している。

学校の取組

本校では、各行事の中で児童一人ひとりが向上心を持ち、人と関わり合いながら主体的に行動できるように努めています。クラブ活動や委員会活動、たてわり活動では異学年で交流したり、協力し合ったりする機会を設けています。その中で、特に高学年の児童においてはリーダーとしての役割を意識させ、自分たちで企画運営ができるようにしています。また、運動会や学年発表会では、児童が達成感を味わえるように、全職員が「ねらい」や「育てたい力」を確認して取り組んでいます。

児童 設問 「運動会やいろいろな活動(学級活動・係活動・縦割り活動・委員会やクラブ活動)が楽しい。」



保護者 設問 「わが子は、行事や諸活動(学級活動・係活動・たてわり活動・委員会やクラブ活動)に喜んで取り組んでいる。」



今後に向けて

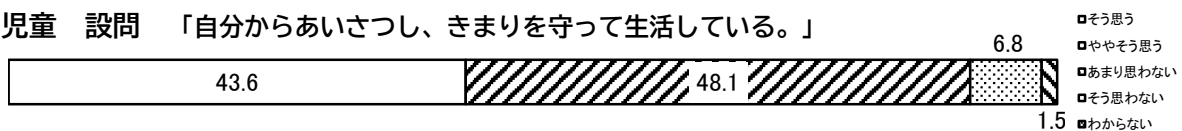
90%の児童が、行事や学校での活動が楽しいと答えています。また、保護者も9割以上が、児童は行事や活動に積極的に取り組んでいると評価しています。今後も各行事・各活動を通して、児童一人ひとりがいきいきと活躍できるように心がけていきます。また、児童にとってより豊かな体験活動(やってみたい!!という気持ちを大切に)ができるように、地域の皆様にもご意見ご協力をいただき、取り組んでいきます。

3 学校は、「礼儀正しく思いやりのある子」を育てる指導を積極的に行っている。

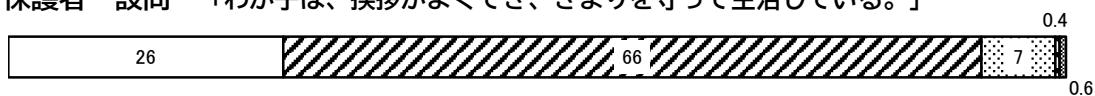
学校の取組

本校では、道徳の時間や学級活動の時間を中心に、学校教育全体を通して思いやりのある行動・行為、その心のもととなる部分に焦点を当て、考えられるように指導しています。集団の中で生活するには、相手を思いやること、きまりや約束を守ることが大切であり、そのよさについて、折にふれ考えさせています。他者と協力し合うことの良さ、相手を思いやることの尊さ、きまりや約束を守ることの良さ、挨拶が人と人をつなぐものであることに気づき、自分で考え、よりよい行動ができる子を育てたいと考えています。

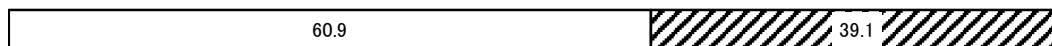
児童 設問 「自分からあいさつし、きまりを守って生活している。」



保護者 設問 「わが子は、挨拶がよくでき、きまりを守って生活している。」



教職員 設問 「私は『礼儀正しく思いやりのある子』を育てる指導に積極的に取り組んでいる。」



今後に向けて

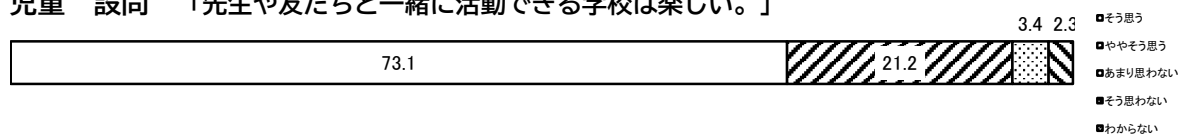
児童、保護者ともに9割以上「あいさつをし、きまりを守って生活している」と答えています。今年度は登校から始業開始までの時間、民生委員の方々が校庭・校内の見守りを行ってくださっています。自分たちを支えてくれる人たちに意識をもつことができるよう働きかけることで、より礼儀正しく思いやりのある子を育てていきます。

4 児童は友人や先生との学校生活に満足している。

学校の取組

本校では、児童の主体的な活動や異学年交流による体験的な活動に取り組んでいます。今年度は、学年発表会や運動会などの行事の中で、児童が活躍できる場をさらに増やしました。昨年に引き続き、運動会では、たてわり活動の取組を生かした種目が提案され、児童同士のつながりが深まるような活動を充実させてきました。学校が児童にとって居心地がよく、安心して生活できる場となるように努めました。また、児童や保護者のニーズに応じた学習支援や教育相談などの充実に努め、スクールカウンセラーを活用した教育相談や支援を積極的に行っています。教職員は児童のよいところを褒めたり、励ましたりして、一人ひとりの気持ちに寄り添う努力をしています。

児童 設問 「先生や友だちと一緒に活動できる学校は楽しい。」



★教職員 設問 「児童は、友達や先生との学校生活に満足している。」



今後に向けて

多くの児童が「学校が楽しい」と回答しています。しかし学校は児童が安心して楽しく過ごせる居場所でなければならないという前提からすれば、数%の児童にとってそうではない事実は見過ごせません。引き続き学級や学年を中心とした集団づくりを基本とし、児童の様子が気になる時は気持ちに寄り添って支援をしていき、全ての児童にとって「楽しい」と思える学校を目指していきます。その際チームでの対応を基本とし、多角的な視点で連携を図りつつ支援していきます。また今後も異学年での交流にも力を注いでいきます。今年度も実施した運動会のたてわり種目のように、児童が主体となって工夫が生まれていくように支援をしていき、さらに縦や横のつながりが深まるようにしていきます。

5 学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。

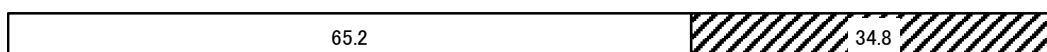
学校の取組

本校では、道徳科の授業で、いじめについて考える時間をもち、全ての児童がいじめを行わず、また、ほかの児童に対して行われるいじめを認識しながら放置することがないように、いじめの未然防止に取り組んでいます。11月には児童会を中心に、いじめ防止の取組として「幸せのバケツキャンペーン」を行いました。友だちからの優しい言葉、受け取って嬉しかったメッセージなどを全校で共有し、温かい言葉の浸透に努め、この取組を今後も継続して行っていくことが大事だという認識を深めました。また、教職員はきめ細かく児童の観察をするだけでなく、毎月のスクールアンケートの結果を共有し、いじめの早期発見や早期対応につなげるとともに、長期的な視点で児童の変容を見守っています。いじめが認められた場合には、「いじめ対策等検討委員会」を開き、解決に向けて支援や指導に取り組んでいます。

保護者 設問 「学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている」と捉えている。」



教職員 設問 「本校では、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。」



今後に向けて

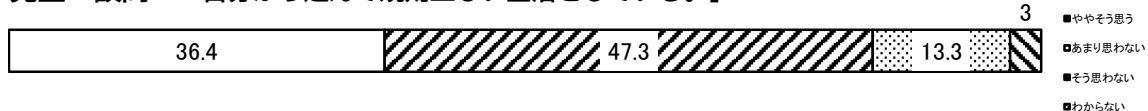
62%の保護者が、いじめ問題に対しての学校の取り組みを認めています。これは、子ども達の関係が深刻になる前に教職員や児童、または保護者が気づき、連携して対処しているからではないかと思われます。一方で、保護者の24%が「わからない」と回答しています。学校の取組としては、見えにくい部分かもしれませんが、今後も学校だより等を通して、いじめ問題への取組や対応策について、積極的に発信したいと考えます。また、2%の保護者が「そう思わない」と回答していることを真摯に受け止め、いじめの早期発見と対応、再発防止に努めるとともに、教育活動全体を通して、思いやりの心やいじめをしない・許さない規範意識を育てていきます。

6 学校は、「進んで行動できる子」を育てる指導を積極的に取り組んでいる。

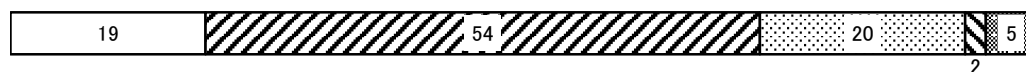
学校の取組

本校では、心と体の健康に留意し、やるべきことはやる「進んで行動できる子」の育成に努めています。担任や養護教諭だけでなく、外部講師を招いて、基本的な生活習慣や健康教育に関する指導を実施し、児童、保護者への啓発を行っています。また、環境美化に進んで取り組むことができるように、全校で黙掃除に取り組んでいます。規則正しい生活習慣をはじめ、時間を守ることも意識できるよう、継続した声かけ・指導をしています。

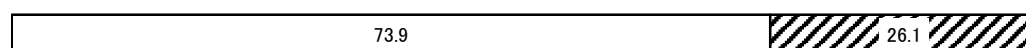
児童 設問 「自分から進んで規則正しい生活をしている。」



保護者 設問 「わが子は、健康について教えてもらったことを自ら進んで実行に移している。」



教職員 設問 「私は『進んで行動できる子』を育てる指導に積極的に取り組んでいる。」



今後に向けて

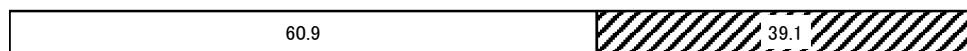
80%以上の児童が、「自分から進んで規則正しい生活をしている」と答えています。引き続き心と体の健康に留意した保健指導を行うとともに、保健だよりで家庭と連携を図ることに努めていきます。また、「生活リズム大作戦」の実施や、朝の健康観察時の生活チェックを通して、規則正しい生活習慣を意識することができるよう指導していきます。

7 学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。

学校の取組

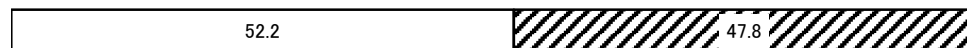
本校では、児童の安全指導は、健康・安全グループを中心に日常指導や問題が発生した場合の即時対応を基本にして取り組んでいます。登下校時には、通学路ボランティアやPTA・地域の方々から見守りをいただいています。さらに今年度から、民生委員の方々による朝の見守りを行っていただいたことで、事故防止や子どもたちと地域がつながる一端となりました。また、通学路の危険個所の情報交換をしたり、地域やPTAからの要望をまとめて市に報告したりしています。毎月、安全点検日を設け、全職員で校舎内外の施設点検を行い、環境整備に努めています。

教職員 設問 「私は、児童の安全のための指導に積極的に取り組んでいる。」



☐ そう思う
☐ ややそう思う
☐ あまり思わない
☐ そう思わない
☐ わからない

教職員 設問 「私は、児童の安全のために施設・設備の点検整備に取り組んでいる。」



今後に向けて

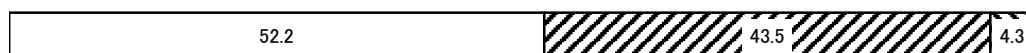
今後も通学指導ボランティアの方々や民生委員の方々、校外委員会を中心としたPTAの方々と連携し、児童が安全な登下校ができるように努めていきます。また、消防・防災計画の検証や危機管理体制の徹底に取り組んでいきます。さらに、児童の実態に即し、より効果的な避難訓練や交通安全教室等を実施することを通して、児童の安全に関する意識を高めていきます。施設の点検整備を定期的に行い、児童が安心して生活できる学校づくりに努めていきます。

8 学校は児童に応じた支援の工夫をしている。

学校の取組

本校では、一人ひとりのニーズに応じた支援教育をめざし、校内支援体制の充実と他機関との連携に取り組んでいます。「特別支援学級」「ことばの教室」で、個に応じた丁寧な指導をするとともに学習支援にも力を入れています。各学級でのチームティーチングや、個に応じた学習支援の機会を設け、指導をしてきました。さらに、今年度からスクールカウンセラーが週2日配置され、サポートルームも開設されたことにより、よりきめ細やかな支援の拡充を図っています。

教職員 設問 「私は、個々の児童に応じた支援の工夫をしている。」



☐ そう思う
☐ ややそう思う
☐ あまり思わない
☐ そう思わない
☐ わからない

今後に向けて

90%以上の教職員が個々の児童に応じた支援の工夫をしていると答えています。今後においても、児童一人ひとりの実態把握に努め、全職員で共有しながら、よりよい支援ができるように努めます。また不登校傾向にある児童、保護者に対する有効な支援についてもスクールカウンセラーだけでなく、関係機関と連携しながら進めていきます。個々の児童に応じた支援のあり方について悩んでいる教職員もいます。相談にのるとともに研修の機会を設けていきます。

9 校長を中心とした運営組織になっている。

学校の取組

本校では、校長の学校経営方針を受けて、所掌内容ごとに4つのグループ（「カリキュラム・地域連携」「研究・研修」「健康・安全」「児童指導・支援・相談」）があり、総括教諭を中心に企画・運営をしています。それぞれのグループが定めた重点目標に向かって取り組み、学校教育目標の具現化を図り、学校が組織として機能するように取り組んでいます。

教職員 設問 「私は、運営組織の一員として協力して仕事に取り組んでいる。」



今後に向けて

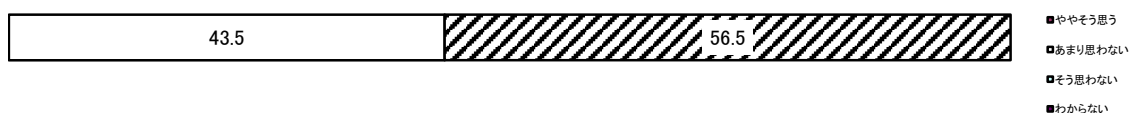
来年度も学校教育目標をもとに、各グループが重点目標を定め、今年度の反省を生かして業務を改善し、学校運営に取り組んでいきます。全教職員が個々の特性を生かし、落合小学校の子ども達のため、協力していきます。また、4つのグループ間で日々連携を図り、経験の浅い教職員の人材育成に努めながら、学校教育目標の具現化に向け、全職員が一丸となって取り組んでいきます。

10 学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。

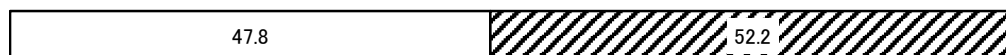
学校の取組

教職員は、個人や複数人で教材開発・教材研究に日々取り組んでいます。より個々の力量を高めることをねらって、校内研究では、教職員の対話を大切にしています。低学年、中学年、高学年ブロックで学年を越えて連携を密にしながら教材研究し、研究授業を公開することで、そこでの気づきや課題が、より普段の授業改善に生かされるようになりました。研究授業前後の協議会では、活発に意見を交わし合い、授業での児童の姿や変容を核とした話し合いを積み重ねています。また、教職員のニーズに沿ったミニ研修にも力を入れています。

教職員 設問 「私は、校内研究に積極的に取り組んでいる。」



教職員 設問 「私は、教師としての力量を高めるための研修に積極的に取り組んでいる。」



今後に向けて

「何ができるようになるか」という児童の資質・能力を育成するために「どのように学ぶか」という子どもの目線で教材研究・授業改善に臨み、教職員一人ひとりの授業力を今後も高めていきたいと考えています。そのための校内研究や積極的なOJT、また校外の研修等を通して教職員同士の技術の継承、思いを実現させるための対話を一層大切にし、それぞれの持ち味を生かしながら、お互いに高め合える教職員集団を目指します。

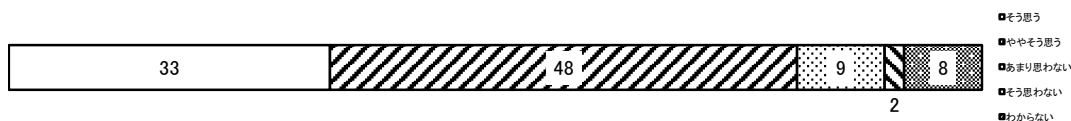
11 学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。

学校の取組

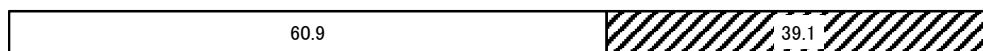
本校では、毎月の職員会議において、全職員で児童の状況を共有して指導にあたっています。毎月スクールアンケートをとったり、丁寧に児童同士のかかわりを見取ったりすることで、困り感をもっている児童を、職員全体で見守り、支援しています。学校行事や児童会活動などでは、昨年度の反省を生かして、より児童の成長につながるものになるように計画・立案し取り組んでいます。また、発達段階に合わせた教育がスムーズに行われるよう幼保・小・中の連携を図っています。さらに、PTAの会議や学校運営協議会を開催したり、学校評価を実施したりして、地域や保護者の皆様からご意見

をいただき、学校の改善に努めています。

保護者 設問 「学校は、子ども達の様子に気を配り、よい点を認め伸ばす努力をしていますか。」



教職員 設問 「私は、必要な情報を収集し、職員間で情報を共有し、よりよい児童の成長のために工夫している。」



今後に向けて

8割以上の保護者が、学校は子どものよさを大切にした指導をしていると答えている一方で、子どものよさが大切にされていないと感じている保護者もいることを真摯に受け止め、これまで以上に全職員で子どもたちの様子に目を配り、個に応じた指導ができるように努めていきます。家庭との連携を密にとり、子ども達の頑張りや成長を共有し、フィードバックしていくことにも努め、より一層、児童一人ひとりが大切にされていると感じられる学校づくりを行っていきます。

12 学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。

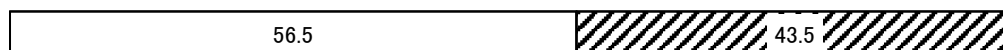
学校の取組

本校では、学校だよりや保健だより、学年だより等を発行し、情報提供を行っています。今年度も授業参観や個別面談を実施し、学校と家庭との情報交換に努めました。運動会や学年発表会などの行事や授業公開は、児童の学習成果の発表の場として、貴重な機会と捉えています。また、保護者へ協力をお願いし、低学年の調理実習補助や朝学習の時間を利用した読み聞かせの活動を行っています。学校と保護者が連携して、児童の成長へとつながる取組を行っています。

保護者 設問 「個別面談やおたよりなどを通じて、子どもの様子を知ることができた。」



教職員 設問 「私は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取り組みを行っている。」



今後に向けて

90%近い保護者が、学校から情報を得ていると答えています。来年度も学校だよりや学年だより等の各種おたよりを通じて、保護者の方への情報発信を心がけていきます。また、電話連絡や学校配信システムを活用し、必要な情報を迅速にお伝えするようにします。さらに、行事等を通して、子ども達の日頃の頑張りや成果を保護者にお伝えできるようにします。個別面談や懇談会では、学校や家庭での子どもの様子を共有し、連携を図っていきます。また、学校運営協議会やボランティアの方とは、これまで築いてきたつながりを大切にしながら、児童の学習活動がより豊かになるよう、連携をしていきます。学校評価でいただいた保護者の皆様の声も、今後の学校運営に生かしていきます。